

2025年10月学力Bテスト社会について

社会科担当講師 藤田

昨年は大問5題で、大問1が地理、大問2・3が歴史、大問4・5が公民でしたが、今年はそれ以前のように、大問6題で地理・歴史・公民がそれぞれ大問2題ずつ出題されました。

①は、日本地理からの出題で地形図を含みましたが、記述も含め基本的な問題が11問出題されました。よく出る平野や河川などの地形名は覚えておきましょう。また、**扇状地、三角州、リアス海岸、ハザードマップ、瀬戸内の気候の説明などは頻出**です。

②は、問1で北海道公立高校の入試で必須の北方領土から択捉島が問われました。ここはほとんどの人が得点したと思います。問2が資料から推測される外国人旅行者が北海道を訪れる人が多い理由を問われた記述問題でした。ここは正答率が低かったと思われます。資料だけではなくそこから知識も組めて考えられることを記述しなければなりません。近年はこのような問題が増えているので、社会的な思考力や知識が求められます。

③は歴史で中世から現代まで6問出題されました。基本的な重要語句からの問題で、かつ選択問題が多かったので、正答率が高いと思います。ただし、法令の内容や名称は書けるようにしておきましょう。

④も歴史で古代から近代まで6問出題されました。3と同様、重要語句からの問題で、かつ選択問題が多かったので、正答率は低いと思います。しかし、天皇の名前や中国の王朝名や文化と文化人の内容はあやふやな人も多くみられるところなので、得点できなかった人もいるかもしれません。「**遣隋使の派遣**」や「**唐の律令制度を基にした大宝律令**」、「**日宋貿易**」、「**日明貿易**」など日本とのかかわりから**中国の王朝名の変遷の確認**をしましょう。

⑤は公民から選挙について5問出題されました。B模試やB対策テキスト内容とかぶっているところも多く、正答率も高いと思います。しかし、問2の投票用紙から選挙制度を問う問題や問3(1)の記述問題は単純に語句を暗記しただけでは、解答できなかったと思います。問2の投票用紙は**政党名だけを記入する形式**でした。このことから**比例代表選挙**が正答となります。衆議院は小選挙区比例代表並立制の仕組みをとっていますが、小選挙区の場合は候補者の名前を投票用紙に記入することになるためです。

⑥も公民からで、基本的人権から7問が出題されました。基本的な問題が多く、ここもぜひ得点してほしいところでした。

〈総評〉

基本的には、今年度の社会科学力テストは例年通りの問題が出題されたように思います。

記述問題が数年前から増加していて、9問から10問で得点にして30点分ぐらいでしたが、今年も、記述は9問あり、資料を読み取り記述で答える問題がありました。この形式の問題は入試でも近年多くなっています。社会で得点を取るには、記述問題を避けては通れません。さらに90点以上の高得点を取るには、いかに、記述や正答率が低くなる細かい知識問題で点数を落とさないかが鍵となってきます。単純に暗記するだけでなく、知識をつなげて覚えていきましょう。

〈中3生にむけて〉

学力テストはゴールではありません。入試が本番です。今回間違った問題を二度と間違えないように解き直しを必ずしましょう。ほかのテストでも同様です。解き直しは必ずし、過去問は問題の傾向をおさえるために早めに取り組みましょう。ミスした問題や気づいたことを学習し、「わかる!」を増やしていきましょう。

今の頑張りが半年後の笑顔につながります。頑張り受験生!